

2024-25 年度
福山西ロータリークラブ

例会情報

第 1601 回 (27)

会 長 鹿 内 要 秀 幹 事 吉 山 聡

クラブ会長テーマ



「奉仕によるこび、よりよい社会を築こう」

日 時	2025 年 2 月 18 日 (火) 12:30 ~
場 所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点 鐘 ・ ソング 「我等の生業」 「ロータリアンの行動規範」唱和 ゲスト・ビジターの紹介 (出席報告参照) 会 長 報 告 幹 事 報 告 出 席 報 告 S A A 報 告 ス マ イ ル 報 告 プ ロ グ ラ ム 情 報 そ の 他 報 告
その他情報	メークアップ情報 (来週分) メークアップ情報 (再来週分) 今後の行事予定 クラブ活動報告



【 会 長 報 告 】

カンボジア・ベトナム訪問について

2月7日から4泊6日でカンボジアとベトナムに行ってきました。参加者は10名でした。

カンボジアではアンコールワットの日の出を拝んでから今回の目的である児童養護施設「スナーダイクマエ」を訪問しました。

今年度、梶原国際奉仕委員長が企画して実施済の、施設の補修費用30万円が無駄なく活用されていて、勉強や食事をする建物の屋根や渡り廊下の屋根が完全に修理されていました。これで子供達も安心して生活することが出来ると思います。さらに他にも気になるところがありましたので今後も支援が必要だと思いました。

また、子供達がとても素直で希望を持って暮らしている姿を見て、施設の職員の皆様の子供達への愛情も感じられました。

国際奉仕事業においては相手に直接支援金を渡したり、現地を訪問するのは、私たちの奉仕の気持ちそのまま相手に届けられますから、とても有効だと思いました。

旅行中は色々とハプニングがありましたが、ロータリー精神でお互い助けあうなど、海外旅行はフレンドシップにはとても有効です。次の機会には、会員同士お互いを知るためにも、親睦を深めるためにも、もっと多く方が参加されることを期待いたします。



【 幹 事 報 告 】

No.	内 容
1	第2710地区事務局より ・2027-28年度 ガバナー候補者推薦について ・2025-26年度 PELS&地区チームラーニングセミナー ご案内 ・第9回日台ロータリー親善会議 札幌大会のご案内 ・2025-26年度 地区補助金について
2	米山記念奨学会より ・ハイライトよねやま
3	G11 ガバナー補佐より ・2025学年度米山記念奨学生 世話クラブ・カウンセラー依頼の件

【 プ ロ グ ラ ム 情 報 】

《 カンボジア訪問 報告 》

【鹿内 要秀 さん】

旅行に関する感想は他の参加者にお任せして、ベトナムでの私の単独行動の報告を致します。私は元会員の久田さんをお願いして、現地の日本語の先生をしておられる「ハン」さんのガイドで一日ホーチミン市内のお寺巡りをしました。

私は宗教者として国民の宗教態度をみればその国の貧富が分かります。国が貧しいほど信仰が強く、国が豊かなほど信仰は弱まります。皆さんもそういう目で世界のニュースを見ればよく分かると思います。ベトナムは国民の8割が仏教徒ですから、今回は仏教寺院を4ヶ寺巡りました。

国民の信仰を見るのが目的ですから、有名な観光寺院ではなく一般の人が参拝するお寺のみ巡りました。その結果ベトナムはとても貧しい国だと思いました。たしかにホーチミン市は人口1200万人の巨大都市でバイクが多いけれども高級車もたくさん走っています。輸入車には200%の関税が掛かりますから日本の三倍の値段になりますが買える人が多くいるということです。しかしそれは人口のほんの一部に過ぎないのでしょうか。

ハンさんの話では殆どの方が毎月5万円の給料から家賃、光熱費、食事代として3万5千円が無くなるので貯金が出来ない状況だそうです。だからベトナム人は知らない人なら相手がベトナム人でも平気でだまします。基本的に家族以外は信用しません。それ故毎日疑心暗鬼で暮らしているそうです。

そのせいも有ると思いますが、ベトナム人は毎晩お寺に行って一時間お経を読んで今日の無事と明日の幸せを祈ります。どのお寺でも毎晩70~80人が集まるそうです。また、決まった日には数百人が集まり祈りを捧げるそうです。私はこの話を聞いてからあらためてベトナムの人の顔を見ると、時折見せる無表情の目に不安と不満があるように感じました。そんな中でも僧侶は大事にしてもらっています。だからでしょうか、どの僧侶も穏やかで優しい目をしています。私はそんなベトナムの僧侶がとてもうらやましく思いました。ハンさんから他にもベトナムにおける男の話、女の話、生活、教育、経済、他国に対する考え方など暮らしてみなければ分からないようなことを車の移動中にたくさん教えてもらいました。

そのお話は私の宝物になりました。ほんとうに素晴らしい一日でした。

最後になりますが、みなさんにとってどうでも良いことですがハンさんはとても美人です。

【渡邊 祥子 さん】

私の初カンボジア・ベトナムの旅について話します。まず関空に竹信さんと行きました。買い物をしてご飯を食べて今から関空に向かうという時に、竹信さんが歯が痛いから帰ると言い出しました。

冗談かと思ひ顔を見ると本気で帰る雰囲気でしたので、あわてて夜間診療を探しなんとか見つけ、天王寺まで行き治療してもらい、終わって空港に向かいました。が、電車を間違えて奈良に行っていました。また乗り換え、タクシーを使いながらやっと関空に着いたのが夜の1時過ぎでした。そこから小林さんと合流し軽く飲んでその日は休みました。

次の日ウキウキで空港に行き、ハノイからカンボジアに入った時、人生初スーツケースがでてこない・・・いくら待っても出てこない。同じ似たスーツケースだけしかなく小林さんが韓国人のキムが多分間違っていると言い、職員に伝えてくださり、あたしは何もないままとりあえずバスに乗りましたが、笑顔もなくスーツケースのことばかり、夜のご飯の味も覚えてないです。そんな時に小林さんが私の部

屋の番号347をみてスーツケースさよならと言ひ、もっと凹み部屋に戻って一睡もできず朝を迎えました。朝、梶原さんに化粧道具を借り、洋服も借りロビーに行くと何故か私より早く小林さんからスーツケースがあったと報告を受けました。それからはじめてカンボジアを楽しめました。しかもその日一日、梶原さんと全く同じメイクでした。スナーダイ・クマエに行き、以前絵を買わせていただいたトラークンともお会いできました。犬がいたのでこの犬はと言うと子供たちが学校から拾ってくると言われたので、そこはどの国も一緒だなあと感じました。カンボジアはガス・電気・水など日常的に必要なことが行き届くまであと何年かかるのだろうかと感じました。初ベトナムはとにかく都会だなと感じました。ベトナム戦争があったとは思えないくらいでした。

最終日、別行動で取引先のお客様の工場を訪問させていただきました。130人ぐらい若い人から年配の方までいました。ベトナムは一人当たりの給料が月に4~5万ぐらいらしく、それでもベトナムの田舎では給料は良い方だそうです。

お昼を一緒に食べたのですが、皆さんイキイキしていて制服を着て、日曜日休みがあってボーナスがあって仕事ができるということがありがたい、と言われてました。最後に私たちができること、していることは少ししかないのだなあと感じました。

あと私はめっちゃくちゃ偏食なのでもっと現地の物を食べられるようになりたいです。

【勝岡 正剛 さん】

今日は例会を欠席しますので、訪問を通しての感想などを、以下報告いたします。国際奉仕委員会のメイン事業である「スナーダイクマエ訪問」に参加いたしました。関空のホテルで前泊、現地3泊、帰路は深夜便と、かなりハードな日程でしたが、楽しいそして大変充実した訪問でした。

*スナーダイクマエ訪問について

現地の施設を訪れ、メアス博子さんから創立時より今日に至るまでの活動の歴史、子供たちの生活の状況などを詳しく説明いただき、また施設内を案内いただきました。子供たちの笑顔に接し、触れ合うことで、今回こちらの施設を支援できたことの意義を肌で感じることができました。

今回の事業は決して大掛かりで、注目されるような規模とは言えませんが、大きな事業では得られない温かみのある、心の通った支援だったのでは、と思います。建物の修理、そして生活や教育に必要な資材の提供など、まだまだ支援を必要しているところが見受けられ、また国内での絵画展への協力も可能です。

できることであれば、クラブとしての計画をしっかりと立て、しばらくは支援を続けていければ、と感じた次第です。

*ベトナム訪問について

カンボジアからベトナムのホーチミン市（旧サイゴン市）に移動しました。二日間の滞在中、ベトナム戦争に関わる記念館や片道2時間ほどかけて戦地であったベトコンの地下トンネル跡地を訪れ、また市内観光では、何列にも並んで整然と走るバイクの群れと市内の近代的なビルや賑わいに驚きながら、教会や郵便局などの歴史的な建物や、庁舎、巨大な卸市場などの見学をし、クルーズでのディナーやメコン川での川下りなど、楽しい一時を過ごしました。

こうした見学を通して感じたこと、それはベトナム戦争の悲惨な歴史と、その一方での現在のホーチミン市の活況や発展ぶりとの大きなギャップです。戦争による破壊とその後のめざましい繁栄、今回同時にこの国の二つの姿を目の当たりにすることで、平和ということについて考えさせられました。

残念なことに、世界では今なお、戦争や侵略が行われております。ウクライナやイスラエルでの戦争も

ようやく停戦に向けての交渉が進もうとしておりますが、ベトナムでの歴史を知ることで、改めて平和と安全の大切さについて知らされた思いです。

*ロータリーの親睦について

今回の訪問者は総勢10名でしたが、私のような年寄りもいれば。入会間もない方や、また大学生の方と、様々な顔ぶれでした。そうした人たちが六日間、朝早くから夜遅くまで行動を共にし、一緒に飲み食いし、観光を楽しむことで、自ずと親睦は深まっています。

「ロータリーの基本は親睦と奉仕」と言われています。国際奉仕でのこうした活動はまさに親睦+奉仕の両方を一度に体験できる絶好の機会といえましょう。

皆さん、国際奉仕事業での海外訪問には、進んで参加してみてください。

*過去にはタイやベトナム、ネパールでの奉仕事業などに参加し、今では懐かしい思い出となっておりますが、今回の事業は創立35周年の記念事業ということでもあり、これまた良い思い出に残る事業への参加となりました。

梶原委員長さんには素晴らしい事業を実施していただきありがとうございます。また参加された皆さんには、大変お世話になり、ありがとうございました。

【松井 宣久さん】

私は、カンボジアの訪問は2回目となります。

スナーダイ・クマエという名前は「カンボジア人の手によるもの」という意味だということを知り初めて知りました。

親からの虐待を受けていた子供や、身寄りのない子供、母子家庭の子供を受け入れ養育する「子供たちにとっての我が家」がスナーダイ・クマエです。

世話をされているメヤス博子さんを、子供たちは「お母さん」と呼んでいます。

家庭的な雰囲気が伝わってきます。兄弟のたくさんいる家族です。

福祉局及びNGOとの業務提携により受け入れる子供は、今はよく審査されて入ってくるそうです。

政府は、表彰はしてくれても援助はしてくれません。

将来のためのスキル教育として（英語・日本語・パソコン等）公立学校で不足する情操教育の補てんとして（絵画・カンボジア伝統舞踊等）も指導されています。

神戸で行われた絵画展で買って帰った絵を、事務所の二階に上がる階段の壁にかけているのですが、お客さんから「いい絵ですね」といわれた事もあります。

この施設の特徴として、これまでに、100名以上の児童の養育に携わったことから、卒業生とのつながりが強く、卒業生が団体運営にかかわり、現在の児童たちの「目指すモデル」になっていることを挙げられていますが、私もそれは感じました。

今、この施設の代表をされている人も卒業生ですし、カンボジア観光のガイドをしてもらったパナさんという人も、この施設の卒業生です。

前回訪問した時は、卒業生の女性がコックとして働いているレストランで、食事をしました。

今回は、児童一人ひとりから自己紹介をしてもらいましたが、短い自己紹介でしたけど「いい子に育っているな」という印象を受けました。

以前は荒れた時もあった、レンガを持ってけんかをしていた事も、あったそうですが、そのレンガを使ってみんなで一緒に、花壇を作られたそうです。

国際奉仕は、援助を受ける側のみが、恩恵を受けるわけではなく、奉仕に参加したロータリアンも、

困っている人の喜ぶ姿に触れることにより、自分自身も「感動」という恩恵を受けるものだとされていますが、私もそう感じました。

旅費は掛かりますが訪問しての支援の大切さと、喜びを知りました。

ロータリーの原動力は親睦です。ロータリーにとどまり続ける理由は友情です。同じ目的で数日を異国の地で共に過ごし、会員相互の絆もより深まった気がします。

楽しい海外旅行でした。また皆さん一緒に行きましょう。

【瀬尾 義裕 さん】

今月上旬のカンボジア奉仕事業に参加して参りました。本日の例会場においても、当時の参加者の皆様のお顔を拝見すれば、現地での思い出が蘇ります。

さて、既に参加された皆様からのご報告がなされていますので、前年度、会長として現地訪問に参加した立場から、今度の訪問をご報告します。

前年度は、委員長の梶原さん、松井さん、鹿内さんの奥様、私の4名で施設を訪問していましたが、この度は総勢10名での訪問が実現でき、力のこもった充実した支援事業になりました。また、入会から間もない方の参加に加え、勝岡さん、松井さん、鹿内会長というベテランの参加があったことで、事業への求心力が高まり、全体として奉仕事業への理解や学びが一層深まりました。振り返れば、他クラブ会員様からのご紹介に始まり、梶原さんにおいて博子さんとのメール連絡を始められ、一時帰国中の博子さんと直接面会され、現地施設の現状と需要を事前に情報共有しながら、着実に計画されてきた事業でした。梶原さんの積極性と奉仕事業へのエネルギー無くしては実現できなかった事業だと感じています。

また、現地では、鹿内会長が子供たちにクメール語で挨拶されたことで、子供たちに笑顔が広がって、我々訪問団との距離が縮まりました。「立派な大人になって素晴らしいカンボジアにするよう頑張ってください」との会長メッセージも子供たちの心に残ったものと思います。

今回の訪問では、奉仕事業という同じ目的を共有した参加者の親睦が多いに深まりました。この親睦はこれからの当クラブの貴重な財産になると確信しています。

【小林 崇 さん】

今回、国際奉仕事業で初めてカンボジアのスナーダイクマエを訪問させていただきました。本来であれば、昨年シンガポールでの国際大会時に皆さんと一緒にカンボジアへ訪問するべきでしたが、当時私は国際奉仕委員会の副委員長だという認識がなくカンボジアへ行かずゴルフをしていました。自分のポンコツさが恥ずかしいです。その時の反省もあり今回の訪問には必ず参加しようと思いました。

ただ、少しでも多くの方に参加してもらった方が楽しいだろうと思い渡邊さんや竹信さんをお誘いしました。閑空での前泊時には仕事の都合で皆さんよりも遅く23時頃ホテルに到着しました。

到着後、前夜祭をしようと思い渡邊さんへ連絡したら「今大変だから後で電話する」と言われよくわからないがお風呂に入って連絡を待っていました。

その後連絡があり私の部屋で渡邊さん、竹信さんと飲みながら話をしていると竹信さんが歯が痛いから帰ると言い出した事、夜間診療を探して行ったこと、電車に乗り間違えて奈良の方に向かっていた事でやっとの思いでホテルに到着したと聞き初日から爆笑しながらの旅行スタートでした。(この翌日に渡邊さんへ起こる悲劇を知る由もなく) 翌日カンボジアのシェムリアップ空港に到着し事件発生、渡邊さんのキャリーバックがいくら待っても出てこない。渡邊さんのバックとそっくりなバックは何周もテーブルを回っており、誰かが間違えたのではないかと空港職員に相談しましたが、その場では解決で

きずそのままホテルに移動、私が人生で初めてのカンボジアで行った場所は、渡邊さんの付き添いでスーパーマーケットと洋服店を回るというショッピングでした。笑 翌朝はアンコールワットの見学をして、今回メインの目的であるスナーダイクマエに訪問しました 訪問時の第一印象は子供達の笑顔が素晴らしい事でした。決して恵まれた環境ではないにもかかわらず、そこには素直な印象の子供達がいきました。梶原委員長が用意をされていた子供達へのプレゼントを渡した時の子供達の嬉しそうな姿がとても印象に残っています。 また、子供達一人一人が日本語で自己紹介をしてくれて、我々が訪問する事に対して準備をしてくれてたのだらうと感じました。

今回の現地に足を運んだことでクラブとしての奉仕事業はとても意義のあるものだと感じることができました。その後、トンレ・サップ湖にてクルーズを体験し迫力ある現地の高床式の住宅を生で見ることができました。私たちの乗った船はお爺さんが船長さんでお孫さんらしき子供達がお爺さんの操船のサポートを 小さな体で一生涯懸命しており家族で協力しながら生活しているんだらうなと感じました。そのような光景を見て今の日本に足りないものを見たような気がしました。 ベトナム・ホーチミンに移動し活気のある街も体験することができとても有意義な時間となりました。今後も機会があれば参加していこうと思いました。

【竹信 勝利 さん】

カンボジア王国のアンコールワット見学をとっても愉しみにしていました。

朝 4 時起きでの現地移動は大変でしたが、想像以上の規模感、空気感に圧倒されました。欧米の観光客が大勢いたのがびっくりしました。急斜面の階段で、渡邊さんの腰が引けてしまい、動きがスローになり、後続に長蛇の列ができていましたので、ぜひ写真をご覧ください笑

鹿内会長に大乘仏教や歴史について教えてもらいながらの見学だったので、とても深く知ることができました。ご教授ありがとうございました。

スナーダイクマエでは、現地を初めて訪れ、カンボジア政府の施策や子ども達の実態を目の当たりにしたことは、本や映像、報告で見るものとは比較にならないほど心に刺さりました。今後の支援の在り方は、魚を与えるのではなく、魚の釣り方を授けるといった How to が必要なのではないかと考えさせられました。

カンボジア・ベトナムを初めて訪れ、持っていたイメージに近いものもありましたが、ずいぶん違った印象も受けました。

思った以上に都会！

田舎は世界ウルルン滞在記で見たとおりで変わりなし。

バイクは多いが、それ以上に運転のスリリングさは映像では伝わらないレベルでヤバい！

声がでかい。クラクションが常に鳴っている。

以外に湿度が低く、暑いが過ごしやすい。

匂いがきついと思っていたが、割とそうでもない。

やはり現地へ行き、肌・空気・人に触れないと分からないなと思いました。

色々とアクシデントもありましたが、全て解決しながらの行程は程よい緊張感を保ちながらの良い経験となりました。今回、向こうでお酒を飲めなかったのが心残りだったので、次はしっかり準備していきたいと思います。

また、今回のような海外プログラムがありましたら積極的に参加したいと思います。

一緒に同行して下さった皆様、とても有意義な時間を共有して下さり、ありがとうございました。

【三谷 篤史 さん】

国際奉仕活動御報告。入会からまだ1か月ではありますが、カンボジア・ベトナム訪問の御報告をさせていただきます。

・カンボジア（スナーダイクマエ）訪問

スナーダイクマエでは、施設の始まり及び現在の状況の説明を受けました。今までテレビでしか見たことが無いこのような施設で、様々な問題を抱えた子供達が笑顔で一生懸命勉強している姿を見て心打たれました。今まで自分が当たり前だと思っていた事がそうではない事に改めて思い知らされました。

今回の支援で屋根・床を修繕できたとの事でしたが、まだまだ修繕が必要な施設であり今後も支援の継続が必要だと感じました。

少しの支援でもあれだけ喜んで頂ける事に幸せを感じましたし、何に対しても感謝の気持ちを忘れてはならない事に気付かされました。このような環境下でも日本語や英語を必死に勉強して立派になっている卒業生がいる、今の子供達の目標となっている事に感動しました。

・カンボジア・ベトナムの旅

今回初めてのロータリー活動・初めての国への旅で不安しかありませんでした。福山からの新幹線が雪の為遅れ、歯が痛くなる方があらわれ、拳句の果てにスーツケースを間違えて持っていかれる等ハプニング続きでどんな旅になるか想像できませんでした。

① アンコールワットの朝日

私は朝が弱いので頑張って起きてよかったです。

② 琵琶湖の14倍のトレンサップ湖

川下りの際必死で家族と働いている子供（バイクにも乗っていた）

③ ベトナム初日の夕食

竹信さんが注文したカエル料理、鳥肌がたったが美味しかった。

④ ベトナム戦争について

ミュージアム・トンネルでの説明

他にも色々ありますが、実際目で見て感じたからこそ記憶に残るし感動があると思いました。

梶原さんを始め御一緒させて頂いた皆さんがとても親切にして下さり楽しい日々を過ごさせて頂き、今までにない経験をさせて頂きました。

本当にお世話になりました、有難うございました。

【塩川 愛 さん】

私はボランティアや国際貢献というテーマに興味があり、今回この訪問に参加させていただきました。この6日間、私は多くの学びと貴重な経験をいただきました。はじめに、この旅に関わられた全ての皆さま、そして、送り出してくれた家族に心より感謝いたします。

特に印象に残っているのは、スナーダイクマエへの訪問です。この児童養護施設には虐待を受けた12人のこどもたちが生活しています。博子さんから、カンボジアで子どもたちが強いられている過酷な状況についてお話を伺いました。出稼ぎのため、親と一緒に暮らしていない子どもたちがいたり、教育の水準が低かったりと、衝撃を受けるお話がたくさんありました。

また、スナードイクマエで印象的だったのは、子どもたちの明るさです。何人もの子どもたちが「名前は何?」「何歳ですか?」と私に話しかけてくれました。わずかな時間ではありましたが、現地の子どもたちと関わることができ、とても貴重な経験となりました。

ベトナムでは、博物館や地下トンネルの見学などを通じて、ベトナム戦争について学びました。博物館では、米兵による拷問や枯葉剤による被害などの写真が展示されていました。とても胸が痛く、涙がこぼれそうになる瞬間が多かったです。ですが、このような光景が、現在も世界では行われているということも忘れてはならないことだと感じました。

私は今回の訪問を通じて、世界の不平等や国際問題に対して、更に関心を持つようになりました。そして、何よりも、人生の先輩である福山西ロータリークラブの皆様と一緒できたことで、大変勉強になる部分も多くありました。また、途中私が体調を崩したりとご迷惑をおかけすることもありましたが、皆さんの優しさに何度も助けていただきました。本当にありがとうございました。

これから、進路選択の時期となりますが、この経験とロータリーの皆様の奉仕の気持ちを忘れず、自分の目指す将来に着実に進んで行きたいと思えます。

【梶原 啓子 さん】

2025年2月7日から4泊6日のカンボジアシェムリアップ市とベトナムホーチミン市の総勢10名での国際奉仕活動になりました。

大ベテランロータリアンで会長経験者の勝岡様、松井様から今月入会した怪力だけど食べ物に泣かされた新会員の三谷様まで、国際奉仕活動が西RCに根付いていくには最高のバランスの参加者だったと思います。

鹿内会長、瀬尾前年度会長、2年連続での国際奉仕委員長を仰せつかった私、ベトナム入国と同時にパワーを発揮した小林様、万年広報委員長を目指す渡辺様、歯の痛みが心配でお酒を我慢し続けた竹信様、なりより今回花を添えてスナードイクマエの子供たちの人気者だった塩川愛様。

前年度荒れ果てていた屋根や天井は修繕されてきれいになっていました。

35周年事業の支援金が、施設の人たちの快適な生活にしっかり役立っていました。次の支援についてもお手伝いできそうな課題も見つけました。

訪問時は子どもたちは日本語で恥じらいながら自己紹介をしてくれ、その笑顔が眩しかったです。全員がDVから避難しているそうですがそれを跳ね返して明るくふるまっているのは、博子さんや周りの方々の愛情こもったふれあいのおかげなのでしょう。支援金を手渡した瞬間、涙がこみ上げてきました。これがロータリーで言われている奉仕の喜びなのかと実感いたしました。

円安で海外旅行もなかなか厳しい中、ご参加くださった方々には経済的なご負担をかけてしまいました。本当にありがとうございました。

せっくなので観光も楽しもうと、盛りだくさんのプランを入れました。カンボジアでは暗闇を携帯のライトを頼りに歩いたアンコールワットの日の出、トンレサップ湖の想像を絶する高床の木造住宅、船頭のお爺ちゃんを手伝っている3人の小学生の孫が懸命に働いている姿に感動。

ホーチミンではサイゴン川ディナークルーズ、メコン川クルーズとクチ地下トンネルの体験、乗り物の時間が多く疲れてしまいました。

私自身ベトナムは4回目。慣れたせいもあるのか食事はどこもおいしく満足できました。

今回の体験が次の国際奉仕活動のさらなる拡大につながることを祈念しております。

【その他報告】

《 3分間スピーチ 》

ロータリー情報委員長 竹中 雅彦

ロータリー地域社会共同体 (RCC)

ロータリアン以外の人から成るロータリークラブ提唱による自助組織である。A.T カパラス RI 会長が提唱した「ロータリー村落共同体」が原型で非ロータリアンであってもロータリーの精神にのっとり地域を発展させるために活動している団体と共同で奉仕活動を実施し、その過程で貴重なグループ活動の経験、技術を習得することを目的としている。分かりやすく説明すると地域の人（町内会など）たちが長年続けられている奉仕活動をロータリークラブと共同して活動し、その経験や技術を今後の奉仕活動に役立てることである。

RCC は社会奉仕部門におけるクラブの奉仕活動であるが、ガバナーは RCC プログラムを地域レベルで推進、運営する責務を地域社会奉仕委員会の中に RCC 小委員会を設置するように奨励されている。

最近では防府 RC が防府天満宮周辺の美化に地域の人たちと共同で活動されています。

《 各種表彰等 》

【誕生日】



《 2月28日生まれ 松井 宣久 さん 》

【皆出席】



《 連続 15 年 古井 正則 さん 》

【クラブ活動報告】

特にありません。

